

令和3年度 学校評価シート

2023年3月

教育理念口	『挑戦と創造の教育』の実践口	目指す学校像	「次のステージで活躍できる人材の育成」 「辞めない辞めさせない教育活動の実践」 すべての生徒が自立する力を身につける学校	育てたい生徒像	自分を大切に、 他者へも謙虚な気持ちで、 未来を切り拓く生徒
重点目標	1 限りなく学力を向上させる教育 2 非認知能力を育成する教育 3 社会的に評価される教育	教職員4か条	①生徒に愛情を注ぎ大切にしよう ②保護者と連携しよう ③生徒を伸ばさせる授業をしよう ④報告連絡相談を意識しよう	芦屋4か条	礼儀（挨拶、授業態度） 傾聴（しっかり人の意見を聞く） 敬意（思いやり、清掃の徹底） 危険（私、あなた、みんなを大切に）

専修学校クラーク高等学院芦屋校		
達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる
 ※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する

※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける
 ※ 評価委員会は、大学教員、自治会長、民生委員・児童委員、教育顧問で構成

自己評価					学校関係者評価			
年度目標				年度評価			実施日 令和4年1月14日	
番号	重点目標の現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策	評価委員からの意見・要望・評価等
1	限りなく学力を向上させる教育 〈現状〉 本校教育を体現する教育課程の編成と意識の共有、実践が進められている。共通した教育目標も明確に示されている。 〈課題〉 職員同士の情報共有と連携する仕組みの構築が求められる。教育の質の向上を目指した計画的な教科間連携も課題。	・教育課程編成 ・教育目標設定 ・学習指導 ・教科間連携 ・キャリア教育 ・教職員研修 ・授業公開	・特色ある教育課程の編成 ・教育目標の共通理解 ・教職員4か条の徹底 ・芦屋4か条の定着 ・習熟度別学習 ・計画的な教科間の連携 ・高大連携の推進 ・進路指導の充実 ・職員研修の実施 ・満足度の高い分かる授業 ・指導力向上を目指す授業改善	・教育課程編成の特色化 ・自己評価の肯定的回答が50%以上 ・職員の意識共有がなされたか ・授業形態の工夫と学習活動の定着 ・授業に対する生徒満足度 ・連携内容の具体化 ・進路ガイダンス、進路相談 ・教員の専門性の向上 ・新指導要領と主体性を育てる授業 ・計画性のある授業実践	・習熟度コース選択、専攻授業を中心に編成 ・自己評価の肯定的回答は89%に達した ・4か条が折りに触れて生徒に伝えられた ・ポスター類も分かりやすく掲示も適切 ・教育顧問会との連携 ・広報関連の情報を共有 ・夏季、冬季休暇の期間中の職員研修実施 ・生徒とのかかわりをアンケート調査（教科指導、授業） ・力の付く授業の推進が見られた	A B B	・生徒の興味関心に応じたカリキュラムの最適化 ・設定目標の継続と具体化・学習意欲を高める ・3つの学び9つの視点「授業方針」の定着 ・進路指導コーナーの充実 ・学力差への対応と個別指導 ・生き方を学ぶキャリア教育の推進 ・県下教科部会への参加の推進 ・校内研究授業と授業研修会の実施（外部講師の招聘） ・月1回の研修会実施	【教育目標】 ・「学校」らしくなった ・引き続きクラークらしい教育活動を実践してほしい ・社会の変化に揺らぐ事なく「生徒が主役」「生徒のためのキャンパス」「生徒自身が自立し次のステージで活躍する教育内容」の確立 ・経営理念のさらなる充実 【授業改善】 ・授業が工夫されおり、かつ教員と生徒との距離感が近く、生徒が質問しやすい ・「習熟度別授業」は良いが、一方で学力差が大きいので上位の生徒を伸ばす手立ても必要 ・ポキャブラリーコンテストが英単語、語学力の確認につながり素晴らしい ・忘れ物の多さ、学級（学年）による出席率の差が気になる ・小中学校時に1人1台の端末を活用した授業を経験してきた子どもたちが入学してくることを視野に入れた授業改善【学習成果発表会】 ・生徒が自分に自信を持っている ・合唱もプレゼン発表等も達成感を生徒達に実感させている ・プレゼンへの認識が定着向上しつつある ・レベルも年々上がり完成度が高く素晴らしい ・借り物の言葉ではなく、自分の言葉でしっかり表現できる生徒が多い ・持って生まれた力をそれ以上に引き出せる先生方の指導熱意を感じた ・今後はマンネリ化しないような工夫が必要（グループでのプレゼンも見たい） ・学習成果発表会を誇りとして継続することが大事 【生徒指導】 ・昨今問題の「いじめ」「体罰」関係は特に間違えば人命と人生に係るテーマだけに引き続きの指導を希望 【進路指導】 ・難しい生徒も受け入れて、生き生きとさせて成長が見える ・社会福祉とも関わり、新たな進路を発見する先生方の取り組みは素晴らしい ・自立して社会に出て生きていく手立てを持たせている 【施設整備】 ・改善要望（保健室の整備、ゴミ箱の分別、トイレの美化等）が十分実現された ・保健室の整備、養護教員の配置は安心感がある ・「せまい」施設を工夫・活用した最大限の教育効果、生徒の安心安全の確保がされている
2	非認知能力を育成する教育 〈現状〉 教科指導だけでなく学校生活全体を通して、主体的自発的に学ぶ環境づくりが整えられつつある。自己肯定・啓発力を育成する活動を進めている。 〈課題〉 粘り強さややる気、工夫する力も求められる。あらゆる機会をとらえて、生徒の成功体験を増やす。生徒が安定した集団の中で自己実現を目指す。生徒会活動の活性化や情報教育の充実も求められる。	・自己肯定感 ・探求心の育成 ・人権教育 ・生徒指導 ・生徒理解 ・情報教育	・アクティブラーニング ・学習成果発表会 ・人権が尊重された教育活動 ・自他の生命の尊重 ・規範意識の醸成 ・事故の未然防止 ・カウンセリング ・保護者との連携 ・情報能力の向上 ・情報モラルとリテラシー	・各教科で生徒が主体的に学ぶ ・対話的な深い学びと態度の育成 ・プレゼンテーションへの工夫 ・自己啓発 ・一人ひとりの個性の尊重と伸長 ・生徒の成長過程に応じた ・生徒会活動、課外活動 ・清掃活動 ・部活動 ・丁寧な家庭との連携 ・情報モラルについての授業実施 ・生徒の意識向上を図る ・安全な情報の利用 ・情報機器への依存	・多くの授業で工夫した取組みが実践 ・1年クラス合唱、2、3年プレゼンテーションに全員参加 ・適切なフィードバックと早期対応ができた ・生徒アンケート（学校生活、学習成果） ・いじめ仲間外れのない集団 ・不安や悩みのある生徒への早期対応 ・問題行動の未然防止 ・年2回のいじめアンケート ・授業の実施ができた ・正しい判断力や望ましい態度が見られた	A B B B	・生徒とのかかわり方を学ぶ研修 ・スモールステップの繰り返し ・温かさの中で毅然とした態度 ・校則に対する職員間の共通理解 ・生徒の意識向上が図れたか調査する ・他者とのコミュニケーション ・生徒アンケート（課外、生徒会）	・共用する階段や廊下など、清掃ができきれいに使用されている ・職員室が情報共有の場として機能していると感じた 【コロナ禍】 ・対面授業が困難な中でリモートでの授業をやりこなせた ・急速なリモートワーク、リモート学習に今後に対応するためにもリモート社会に適応できる人材育成を進めてほしい 【地域活動】 ・生徒参加の効果として、地域で生徒を育む雰囲気が出つつある ・防災部の活動に関わったが、生徒の学びへの前向きな姿勢を感じた ・きめ細やかな教育の成果が出ていると思う ・以前のような地域のお祭りはコロナ禍ではできないが、今は逆に「スマホ講習」でお世話になっている ・芦屋校は愛好幼稚園の避難場所になっている ・合同避難訓練や防災教育で連携していきたい
3	社会的に評価される教育 〈現状〉 コロナ禍により活動の制限があったが、実習やボランティアも新たな形で交流が進んだ。その中において家庭との連携や対外的に発信する仕組みが構築されつつある。 〈課題〉 「安心して安全な学校」を目指してさらなる環境整備に取り組む。地域連携のなかで、生徒が成長する仕組みを構築する。	・学校評価 ・情報公開 ・開かれた学校 ・危機管理体制 ・学校運営組織 ・広報活動 ・環境整備	・第三者評価の実施 ・HPを活用した教育活動の公開 ・地域貢献、ボランティア ・関係機関との情報連携 ・危機管理マニュアル ・コロナ対策 ・校内組織での情報共有 ・入試対策 ・学校説明会	・自己評価と生徒評価（アンケート） ・ホームページの定期的更新 ・地域活動の参加や交流 ・芦屋市を中心とした連携 ・臨機応変な感染症への対策 ・生徒アンケート（コロナ対策） ・校務分掌を超えた報連相 ・オペレーションリーダー育成 ・学校マニュアル整備・活用	・各教育顧問による情報共有 ・肯定的回答が約86%に達した ・自己評価の肯定的回答が約60%だった ・HP週平均3本の定期的更新ができた ・幼稚園実習、地域でのボランティア活動 ・地域対象「スマホ講習会」を全3回開催 ・芦屋市教委等との連携の日常化 ・登下校ルール、ズーム授業、時間割編成 ・校務分掌における役割分担ができています ・事務室と経理関係、広報関連の情報を共有 ・メールを活用した連携体制が構築 ・オンライン、対面授業の併用ができた	A A B	・保護者アンケートを実施し、学校評価に反映 ・芦屋市にある学校としての存在価値を高める ・家庭、地域と連携した危機管理体制も進める ・本部とのきめ細やかな情報連携を進める ・マニュアルの体系化が必要 ・オンライン、対面授業の併用と質の向上 ・今後の情勢を踏まえつつ「学びをとめない」学校運営に努める	・対面授業が困難な中でリモートでの授業をやりこなせた ・急速なリモートワーク、リモート学習に今後に対応するためにもリモート社会に適応できる人材育成を進めてほしい 【地域活動】 ・生徒参加の効果として、地域で生徒を育む雰囲気が出つつある ・防災部の活動に関わったが、生徒の学びへの前向きな姿勢を感じた ・きめ細やかな教育の成果が出ていると思う ・以前のような地域のお祭りはコロナ禍ではできないが、今は逆に「スマホ講習」でお世話になっている ・芦屋校は愛好幼稚園の避難場所になっている ・合同避難訓練や防災教育で連携していきたい